

赤こんりポート

渥美勉リポーター



近江八幡市ならではの体験を Since の子どもたちがヨシ刈り体験

3月26日に、円山町に拠点がある「まるやまの自然と文化を守る会」の宮尾陽介さん指導のもと、フリースクールSinceに通う子どもたちがヨシ刈りを体験しました。

最初に、宮尾さんから「ヨシ」が琵琶湖にとってどのように重要なのか、活用方法や現状の課題、今後の展望を交えスライドを見ながらのレクチャーがありました。その後、ヨシの群生地へ移動し、ヨシ刈りを体験。ヨシ原に入ることが無い子どももおり、笑顔でヨシ刈りをする様子が見られました。Sinceスタッフは、「近江八幡ならではの体験を子どもたちができてよかった」と話していました。

赤こんりポート

馬場利男リポーター



いろいろな体験ができる 「わくわく！ワークショップ in 安土」

「作ってわくわく・見て聞いてわくわく・食べてわくわく」をテーマにした、子どもや保護者が楽しめるワークショップが、3月17日、安土コミュニティセンター大ホールで開催され、県内から25の出店者が集まり、多くの親子が訪れました。各体験ブースでは、ものづくりに挑戦している子どもや保護者が子どもを手伝うシーンが多く見られました。また、会場内では消しゴムで作られたスタンプでビンゴが行われ、参加した子どもたちは楽しみながら景品をもらっていました。主催者の野田真奈美さんは、「大勢の人に来館してもらえてうれしい。来年も地域の人たちに楽しんでもらえるワークショップを開催したい」と話していました。



赤こんりポート

東恵子リポーター



異国情緒に触れた「アングルン」演奏会

「なんともいえない心地良い竹の音がするなあ」と、初めて触れる楽器に興味津々なのは、東町の高齢者デイサービスセンターに通う皆さん。3月28日、インドネシアの伝統楽器「アングルン」の演奏会がありました。この楽器はインドネシアの無形文化遺産に登録されており、1人でも複数人でも演奏ができることから、「竹のハンドベル」といわれています。竹の筒をゆすって音を出すため、インドネシアでは脳卒中患者のリハビリの一環として、音楽療法に使用されているそうです。この日は小・中学生を含む8人が訪れ、「王将」や「365歩のマーチ」のほか、皆さんも1つずつ楽器を手にして「ふるさと」を演奏しました。インドネシアの曲で日本でも歌われた「ブンガワン・ソロ」の合奏など異文化に触れ、目を輝かせる皆さんでした。

赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



地産のもてなし 移住者向けイベント「ウェルカムパーティー」

3月8日、出町にあるHANA KENコミュニティスペースで、「はちりゅうウェルカムパーティー」が開催されました。他の地域から引っ越してきた子育て世代が地域の情報を得やすく、そして友人を作りやすくすることを目的としたイベントです。地域の子育て情報がわかるクイズや地産野菜のレシピデモ、でっちゃんかんなど地産品が当たる抽選会、まつりの楽しみ方などのフリートークで、パーティーは終始盛り上がりしていました。次回は5月24日開催とのこと。問い合わせは主催のママサポート近江八幡・竜王まで。

4月7日



トライアスロンにチャレンジ

健康ふれあい公園で、「ミニミニトライアスロンリレー」が開催されました。小学4年生から中学1年生までが、「スイム・バイク・ラン」それぞれを3人1組チームのリレー形式で競い合うというもの。同じサッカーチームに所属する子どもたちや友達同士など、さまざまな構成の15チーム66人が、種目ごとに人や並び順などを替え、それぞれの良さを発揮していました。バイクでは、ペダルがない「バランスバイク」によるリレーを行い、中学生1年生を小学4年生がさっそうと抜き去る光景も見られました。春休みの終わりに思う存分体を動かし、親子で楽しみながら良い思い出作りをしていました。

4月14日



春の夜を焦がす「八幡まつり」の松明

西暦275年に応神天皇が現在の日牟禮八幡宮へ参詣される際に、ヨシで松明を作り、火を灯して道案内をしたのが始まりとも伝えられている大祭「八幡まつり」。14日に行われた宵宮祭は「松明まつり」と呼ばれ、周辺の12郷がヨシやナタネなどでつくった約2.5メートルから10メートルにおよぶ大小約30本の松明を燃やし、豊作と無病息災を祈りました。

打ち上げ花火を合図に仕掛け花火が奉火されたあと、各郷の松明が次々に奉火。このうち、大房は結った大松明を馬場へ担ぎ込み、点火しながら竹竿で支え立てて奉火し、観客の喝さいをあびていました。

3月23日



「子どもたちに笑顔を」 白鳥川沿いで桜ぼんぼりフェス開催

「白鳥川の景観を良くする会（景観隊）」が、市民に白鳥川沿いの桜並木で夜桜を見ながら散策を楽しんでもらおうと、手作りのぼんぼりを設置しています。コロナ禍前まではぼんぼり設置後に点灯式を行っていましたが、今年は子どもたちにも楽しんでもらおうと、「桜ぼんぼりフェス」が初めて行われました。

当日約200人の親子連れが訪れ、無料のバルーンアートやシャボン玉、ソフトクリーム、綿あめなどを楽しみました。午後5時30分過ぎには、桜並木に1キロメートルに渡って設置された333個のぼんぼりが一斉に灯り、集まった親子らは感慨深げにぼんぼりを見上げていました。

4月5日



歌とパレードで呼びかける交通マナー

住民一人ひとりが命の尊さを考え、交通ルールを正しく守り、交通安全意識の向上を図ることを目的に、近江八幡地区春の交通安全運動出動式が近江八幡警察署で行われました。出動式では、ひむれ乳児保育所の幼児たちが扮するジュニアポリスによる歌の合唱や、県警音楽隊がおうみ交通安全ソング「ありがとう滋賀の道」を演奏したほか、園児の祖父母のシニアポリスが交通安全宣言を行い、事故防止を誓いました。最後に、出動の号令を合図に、白バイ2台を先頭に「交通安全運動実施中」と書かれた横断幕を手に、官庁街通りで啓発活動を行いました。